

若者が語る“我”

21世紀に生まれた方が成人を迎える最初の年、
今号は令和3年成人式企画運営会議委員で、中学時代に平和事業の広



大島諒也さん(久寺家中学校卒)



橋本小都美さん(白山中学校卒)

コロナ禍の中で

市長：ご成人おめでとうございます。昨年から新型コロナウイルス感染症の影響で生活も一変したかと思えます。コロナ禍の中での学生生活や関心を持っていることを教えてください。



▲対談の様子

山口さん：3週間に1回大学に行っています。料理サークルに入っているのですが活動できていません。

佐々木さん：授業は週に1回だけ対面でそれ以外はオンラインです。自分で考えて友達と共有することができませんし、今年は大丈夫かなって不安があります。

橋本さん：不安もありますが、オンライン授業を受けているので、家事をしたり家族と過ごす時間が増えたことがすごく嬉しいです。

大島さん：ボート競技をしているのですが、今は練習ができないのでコンディショニングについて勉強しています。ストレッチの手法もさまざま、人体ってとても面白いんです。

私たちの街の魅力

市長：我孫子の魅力の一つ、手賀沼の水辺空間は癒やされる場所なんです。嘉納治五郎や志賀直哉ら多くの文化人も手賀沼の魅力に引かれ我孫子に居を構えました。実は、今回座談会の会場となっている日立アカデミー我孫子キャンパスも日本郵船の社長だった大谷登さんの別荘跡なんです。皆さんのような若い世代にとっては、我孫子の魅力ってどのようなところですか。



▲日立アカデミー我孫子キャンパス

橋本さん：自然です。手賀沼遊歩道を走るとリラックスができますし、四季折々で同じ場所でも見え方が異なります。他では見られないなと感じています。

山口さん：利根川です。特にゆうゆう公園あたりは自然を感じられて、体ものびのび動かせとても気に入っています。我孫子駅から常磐線や千代田線1本で都心にも行けて、自然もありつつ、都心までのアクセスも良くて過ごしやすいところが魅力です。

大島さん：手賀沼の自然です。ランニングをしていると菜の花や桜など、花の香



▲手賀沼の菜の花と桜

りでやる気が湧いてくるんです。手賀川にかかる橋のあたりの景色が良い意味で田舎でとても好きです。手賀沼の青と田んぼの緑は、気付かれていないかもしれないけれど都内から帰ってきて私が感じた魅力です。



▲谷津での田植え

佐々木さん：私は、自然と触れ合える場がたくさんあるところです。小学校の授業で、湖北台西小の近くにある谷津田で生物観察や植物を見たり、田植え体験をするんです。その話をするとやったことがないという人がたくさんいて、あらためて恵まれた環境にあるんだなと思いました。

市長：皆さんが魅力に感じている手賀沼などの自然や景色、遊歩道といった場所を将来に残していきたいと考えています。自然豊かな生活空間を持つ住宅地は他にはない我孫子の魅力です。

もうひとつの魅力「平和事業」

市長：豊かな自然も我孫子の魅力ですが、平和事業も魅力あるとても大切な事業なんです。市では被爆地への中学生派遣やリレー講座などの平和事業を行っています。



▲広島派遣の様子

去年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、広島派遣中学生も人数を制限しました。平和記念式典も広島市の意向を受けて参加ができなかったんです。その代わりに、広島平和記念資料館で気になったところを何回も見学したり、被爆者体験を聞いたりしてきました。皆さんも中学生の頃に広島派遣中学生として参加しましたが思い出に残っていることはありますか。

大島さん：私たちは中学2年生の時に広島へ行きました。平和記念資料館で、被爆された方のお弁当箱や服装などがいろいろと展示されていたのがいまだに記憶に残っています。



▲参加者と語る星野市長

山口さん：私も資料館です。

橋本さん：写真では何回も見ただけなんですけれど、実際に自分の目で見ると、「本当にここで起こったんだ」ということを鮮明に感じさせられて何も言葉が出てきませんでした。また、ボランティアの方がガイドをしてくださった話が自分の中でも衝撃が強く、今でも鮮明に覚えています。

佐々木さん：私は、全国の中学生や高校生が集まって話し合う場があり、そこで私たちだけではなく、全国の人たちが平和についてどう考えているのか